

令和6年10月17日(木)「教えて!!ドクターQ&A」

神奈川新聞⑥ 慢性のせき

(質問) 気づくと数週間せきが出続けていることに気が付きました。原因は何が考えられるのでしょうか。また、どのような場合に病院を受診すべきでしょうか。

(回答) 一般的には、おおむね2週間せきが続いたら医療機関を受診されるようにした方が良いでしょう。年齢や糖尿病など基礎疾患の有無、発熱の有無、せきの強さなどを考慮したうえで判断すべきですが、迷った場合にはまず受診することが勧められます。とくに血痰、呼吸困難、体重減少、長期間の発熱などがみられた場合は、重大な病気が潜んでいる可能性も考えられるため、できるだけ早く受診しましょう。短期間でおさまるせきの場合にはウイルスや細菌などによる感染症によることが多く、長期間になるほどそれ以外の原因による可能性も出てきます。

ヘビースモーカーで痰をともなっている場合には、慢性気管支炎によるせきであることが多いです。ほかに一般的な慢性のせきの原因には、後鼻漏症候群、胃食道逆流症(GERD)、せき喘息、降圧剤(アンジオテンシン変換酵素阻害薬)の副作用などがあります。また、呼吸器感染症からの回復後にせきだけが続くこともあります。ややまれな原因としては、好酸球増加性気管支炎、気管支拡張症などがあります。後鼻漏症候群は、鼻炎もしくは副鼻腔炎にともなっておこることが多く、これらの病歴の有無を調べます。GERDによるせきでは、胸やけ、声がれ、早朝や夜間のせきがみられることがあります。気管支拡張症によるものでは、聴診により特徴的な肺雑音が聞こえることがあります。

慢性のせきの検査としては、比較的初期に行われるものに、胸部レントゲン写真、血中酸素濃度測定、血液検査(白血球数やCRPなど、炎症や感染に関係のあるものを中心に調べる)などがあります。重篤な病気が疑われる場合には、まずこれらを行うことが多いです。

病歴や診察などからそれほど重い病気ではない可能性が高いと考えられた場合には、これらの検査を行わず、先ほど述べた後鼻漏症候群、GERD、せき喘息など一般的なせきの原因を考え、これらに対する経験的治療が行われることがあります。それによってせきが十分に改善した場合には、さらに検査を行う必要性は減少しますが、改善しない場合には、改めて胸部レントゲンなどの検査を行います。

胸部レントゲンなどを行ってもせきの原因がはっきりしなかったり、肺がんその他の異常が疑われたりするときには、多くの場合さらに胸部CT検査を行い、肺や気管支の形態についてより詳細に検討することになります。